

「クリエイターの話 ～ 私のイメージの源泉」

スペースデザイン部会員 神 芳子

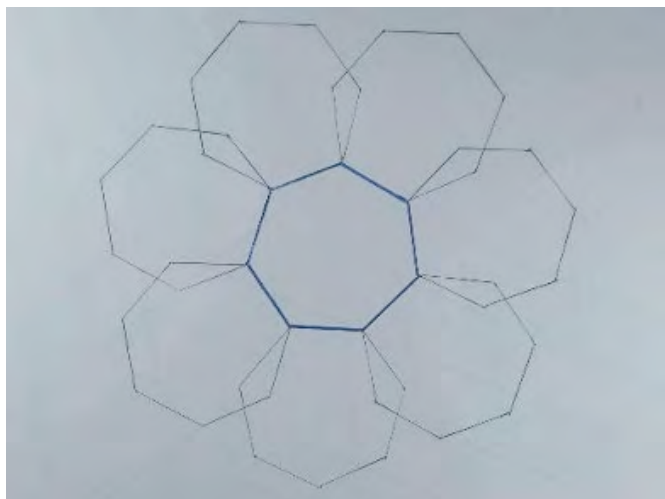
『バスケットリーのテクニックを活かす』

バスケットリーとは、かご作りのことです。

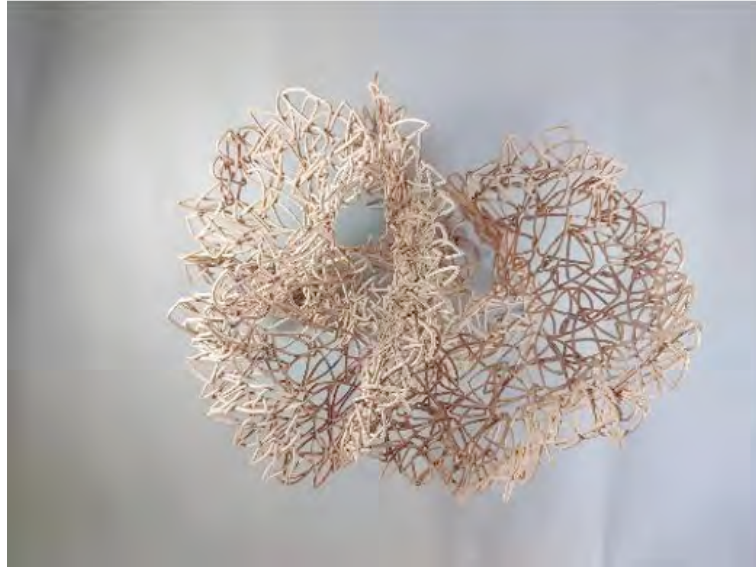
紐状の素材を用いて編む、組む、巻く、結ぶと、多様な技法を用いて制作することが主流です。私は自然素材の籐、ニトー、あけび、樹皮、楮を使っています。テクニックは数多くあり、その組み合わせから変化と進化を遂げ続けています。組み組織は、法則から立体造形を作ることができ、何通りもの変化を見ることができます。このことを踏まえて、個性的で面白い造形を日々追求しています。同時に、クラフト系の作品作りを通して、一般の方と指導者を育成しています。手法はアナログで、四、六角形の方眼用紙等とフリーハンドで試行錯誤を重ね、その過程で「これは次の“種”になるのでは」と、引き出しを多く持つように心掛けています。

『種からの変化と造形』

1. 生徒にオブジェを作らしようと問いかけても、なかなか作れる内容ではありません。そこで、法則からの展開であれば作れるのではと考えた種です。七角形をひとつ作り、その辺に七角形を7個作ると平面にはならず、隣同士が重なり波を打つ。次に二つ折りにして相手の芯と組み、五角形を作る（三段目）四段目、五段目と進めると層が形成される。この種大きく変化すると実感した。



2. ひとつの編み目を長く連ねる。その目に毎段増し目をするとう波が起き、その波を活かしつつ形を整えながら編み進める。



3. コイリング編み（芯に回転して編む）

型を作り、たて芯にコイリング編みを始めると寸法が変わり、この過程で型から外すとねじれが生じる。理に適うことです。



2、3の変化

4. 中心に穴のある六つ目の造形を作った。面白い種になったので、法則を用いて凹凸と大きい作品を作ってみた。これはハニカム構造に値すると思った。

正六角形は「力の分散」の観点から外部からの衝撃に強い。その辺のフレーム構成は軽量化を図れる。



バスケットリーは水、風、空気を通し、軽やかさを見せることができる。柔らかな質感も鋭さと、テクスチャーを自在に表現できます。



「守護 shin」 (W340)

- 素材 籐と楮
- 技法 コイリングとオリジナル技法





「起動」 (W250)

- 素材 籐
- 技法 振れ編みとオリジナル技法



「depe sea fish 2022」 (W220)

- ・素材 籐
- ・技法 振れ編み オリジナル技法



「Doragon 2021」 (W250)

- ・素材 籐皮
- ・技法 結び、オリジナル技法



Doragon



「プライムスピリット」

<神 芳子 プロフィール>

- 1952 東京生まれ
- 1983 バスケタリー AMIKUMI 主宰
- 1990～ 個展、グループ展、つくば美術館、東京ミッドタウンデザインハブ、日本橋高島屋、銀座ハウス、銀座 AC ギャラリー、いりや画廊、CalleryCallery 鶉 他
- 2002～ クラフト本 5 冊出版、日本ヴォーグ社、オンドリ社、自主出版
- 2012 新制作展 初出品 新作家賞
- 2017 新制作展 新作家賞
- 2020 新制作協会 会員推挙